

第 5 号

ニルヴァーナ



平成 16 年 3 月

NIRVANA



本部：平田是賢（大円寺）
 〒511-0086
 三重県桑名市入江町 31
 電話：0594-22-2433
 Fax：0594-22-9382
 東京支部：並里まさ子
 〒377-1711
 群馬県吾妻郡草津町乙 641-12
 電話/Fax：0279-88-6692
 e-mail：fukenc@dan.wind.ne.jp

装い新たに、第 5 号をお送りします。これまで同様、宜しくお願い致します。

<特集：パキスタンイスラム共和国>

極東の島国に住む私たちにとって、インドから西の中近東諸国はあまりなじみが無かったかも知れませんが、ここ数年の世の中の動きは、ともすれば見せかけの“平穩”に居眠りしがちな私たちを揺り動かし、アジアとヨーロッパの間に横たわる広大な国々の存在を、深い感慨を持って思い起こさせてくれます。

昨年 12 月、そんな国の 1 つパキスタンを訪問しました。インドのすぐ西隣で、東はアフガニスタンとイランに接し、北の中国との国境には、カラコルム山地が横たわります。その昔中国の高僧たちが艱難辛苦の末に踏破した山岳地帯にも、今は高速道路：カラコルムハイウェイができて、中国産の安価な衣類、日常雑貨などを満載した大型トラックが走っています。

投稿ご案内：ニルヴァーナ編集部は、皆様からのご意見を歓迎いたします。本誌に掲載し、さらに多くの方々に紹介して、意見交換の場として活用させていただきます。

編集部

この国はパンジャブ、シンド、バローチスタン、北部辺境州の 4 つの州の他に、インドと微妙な関係にあるカシミール地方、それに少数民族地域に分けられますが、今回は北部辺境州での経験をご紹介します。 楽園園:並里



↑ 診察を待つ人たち



市場で豆類を売るおじさん
1袋 10Rs(約 20 円)

この州都はペシャワールで、隣国アフガニスタンでの戦闘が始まると、常に戦車と報道陣が集まり、生活の場を追われた人々が溢れる町としても知られています。またこの地域が話題に上るたびに世界中の NGO が群がり、危険が増すと(彼らの援助が本当に必要とされる場面になると)、あるいはまた話題性が減ると、波が引くように消えていきました。

パキスタンの中でも特にペシャワールは、過去 20 年以上アフガニスタンと運命を分け合ってきましたが、困難な中でずっと地域の医療を支えてきた人々もいます。



病院で診察を待つ
アフガン難民の親子

< 連携団体 >

T・M 良薬センター(TMRC)群馬県前橋市総社町総社 1024 〒371-0852

理事長:小野文瑛 電話/Fax:027-254-2325

フレンズ国際労働キャンプ(FIWC) 横浜市神奈川区西大口 116-15

委員長:藤澤真人

モグネット:<http://www.mognet.org/>

< 本誌はこの HP からアクセスできます。 >

ペシャワールの街を抜けて高速道路に入ると、両側に難民部落が並んでいます。粘土やレンガを積んだ即席の簡素な小屋が、生活の一端を伺わせます。家の前に、棺が2, 3個ずつ並んでいる家は何軒もありました。彼らの仕事の1つに、棺造りがあるそうです。もう少し走ると、遠方にレンガで囲まれた広大な一角があります。ここは現地政府が難民の居住地として定めた地域で、このような囲いが、この近辺だけで数カ所あるそうです。本来ペシャワールの人口は約200万人とされていますが、難民の数はそれと同数、あるいは多いとも推測されています。彼らへの医療と教育は、パキスタン人と同様に扱われますから、逼迫した財政にとって大きな負担となっています。

コプセル(COPSL)の看板と
アドナン氏
彼はソーシャルワーカーの
ような仕事の他、運営に関
して、何でもやります。



ペシャワールから車で1時間半くらい走ると、右手にノウシェラへの入り口があり、ここにCOPSLの看板が立っています。今日の目的は、ここでの診療風景を見せていただくことです。

この組織は、ペシャワールのカーン一家が運営している非政府組織(NGO)で、“COPSL” Care of Patients of Skin diseases and Leprosy(コプセルと呼んでいました)は、ハンセン病と他の皮膚病を持つ地域の患者に対して無料で治療を提供するために、1995年に設立されました。しかし実際には、様々な疾患を持つ人たちが受診しますし、必要な薬も無料です。

毎月第1金曜日には、皮膚科診療があります。今日はその日で、カーン先生の後輩であるラヒム先生と一緒に来ています。彼は毎回の診療で、350 - 400人の外来患者を診るそうです。

<診療風景>

朝早くペシャワールを出て、太陽が高く上がった頃ここに着いたのですが、火の気のない部屋はとても寒くて、大勢の受診者たちは太陽の当たる屋外の一 corner で互いに寄り添っていました。

この無料診療所には、男女2人の医師の他、男女2人の介護者（秘書と看護師を兼ねる）、マネージャー1人、運転手1人が働いています。



政府の病院には、一定量の薬剤や検査試薬などが時々（数ヶ月に1度くらい）供給されますが、多くの場合、最初の1週間で底を突いてしまうようで、後は患者さんの自己負担です。つまり早い者勝ちで、無料診療を当てにすることはできません。ですから、COPSL の無料診療は大変ありがたい存在で、毎日平均 40-50 人が受診しています。都会ではなく、また交通網も発達していないので、これくらいの人数で治まっているのでしょう。この中から毎年4～5人くらいが、ハンセン病の診断を受けるそうです。COPSL では、現地語で書かれた小冊子を住民に配布し、ハンセン病の早期発見のための啓発活動にも努めています。



ノウシェラの郊外を流れるカーブル川は、インダス川に合流します。

ここで獲れた魚をその場で焼いて、ナンと一緒に食べたら、とても美味しかった！

またここまでこれられない人のために、時々“移動診療所”を提供します。
2004 年 1 月は近郊のピルパに決定されました。前もってこの日の検診を地域に宣伝し、当日は医師 2 人(男女)が車に乗り込んで現地に向かい、1 日に約 400 ~ 500 人の診察をするそうです。

近郊には約 100 万人の住民がいると考えられていますが、ここにもたくさんの難民が入っていて、正確な人口は判りません。ノウシェラのほかに、近くのマンガム、スワディからも受診しており、半径約 80km 地域の、治療センターとして機能しています。

アドナン氏の紹介で、政府管轄の地域病院を見学しました。
この病院では合計 7 人の医師が、1 日約 700 人の外来診療と 80 の病床を抱えています。→

政府管轄病院の 2 人の
医師とアドナン氏



COPSL の年間予算は、主にカーン先生のクリニックから援助されますが、そのほか欧州の NGO (TVO: Trust Volunteer Organization) から支援されていました。しかし今年の 3 月末で契約期限が切れるので、その後どうするかが未定のままです。およそ年間予算は、日本円で 120 万円ほどになりますが、何とかこのまま続けられることを願っています。

コプセルの年間予算 (1 Rs は約 2 円)

医市の給与 : Rs. 369,000
薬剤購入 : 240,000
電気代 : 6,000
雑費 : 12,000
印刷と文具 : 6,000
車修理と維持費 : 3,600
ガソリン代 : 3,600
水道代 : 1,200
合計 : Rs. 632,400

政府の病院で診察を待つ人々



地域病院(政府管轄)の現状

同じ地域にある政府管轄の病院はどうでしょう。1日の外来患者数は約700人で、院長を含めて7人の医師が活動中。看護師不足は深刻で、現在僅か6人。これには政府予算の欠乏に加えて、女性の労働を嫌う習慣も関係しています。ベッド数150のうち80床が稼動中。地域の総人口約110万人に加えて、近くに5つの大きな難民キャンプがあり、実際には膨大な人口になっています。

<内科医師の話より> 受診患者の90%は何らかの感染症を持ち、マラリア、チフス等、結核、ウイルス性肝炎、下痢症など重篤な疾患が多い。

<北部辺境州の疫学担当者との会談より> 1家族の1日の生活費が6Rs(日本円で12円)以下という極貧困層では、重篤な感染症が多い。難民の多くはこの集団に分類される。彼らに対する予防接種は大きな問題で、TB、デフテリア、麻疹など予防可能な疾患が多いのは、ワクチン接種率の低さを示す。

カーン家の人々

ペシャワールでの滞在中、地元のカーン家に居候しておりました。主のカーン先生(Dr. Khan)は皮膚科の医師で、現地最大の国立病院における皮膚科責任者としての重職にありますが、夕方以降は個人のクリニックで働きます。これは途上国では止むを得ない現象で、公務員に十分な給料が支払える日本の基準を当てはめるわけには行きません。私は毎日カーン一家の二階に寝泊りし、三度の食事も全て一緒に、おかげで地域の生活や習慣を知るのに、大いに助かりました。ただ彼らの生活レベルは、大部分を占める一般市民とはかけ離れたものではありませんが。

カーン一家には、奥さんと三人の息子、それにカーン先生のお父さんがいますが、長男は現在寮生活です。奥さんも医師で、時々仕事に出ますが、多くは育児に専念し、かなりの教育ママとお見受けしました。陽気で、にぎやかな女性です。下男が三人いて、家事一切を行います。

おじいさんのカーン氏は、見るからに穏やかな老人で、2人の孫を相手に寛ぐ様子など、まさに聖家族を思わせます。敬虔なイスラム教徒で、お祈りの時間は厳しく守ります。私はこのおじいさんの話を聞くのがとても楽しく、毎日の夕食後は貴重な時間でした。パキスタン独立前後のペシャワール地方の様子、

かつて日本の指導を得て発電設備を設立した頃のこと、宗教のこと、NGO活動についてなどなど、話は尽きませんでした。

後で聞くとところによりますと、現地人の家に泊まるのが、どんな豪華なホテルに泊まるよりも安全だそうです。また滞在中の移動は全てカーン家の車を使いましたが、これもまた最も安全な方法のようです。とにかく政情不安定な地域での旅行は、なるべく現地人と行動を共にすることがポイントのようです。ご参考までに。

ペシャワールを去る最後の晩、お世話になった人たちに、日本では、ガンダーラとの繋がりを示す宝の数々が、1500 年近く大切に守られていることを伝えました。

=====



多絵ちゃん便り



「よう来てくれました。まあ座って下さい。」といつもにこやかな笑顔が私を迎えてくれる。この素敵な笑顔の K さんに会って、もう 7 年になる。私の家族を始めて K さんに紹介したのは、社会人 1 年目の 5 月だった。初めて会うハンセン病の元患者さんへの家族の質問に、「はい、そうですよ。もう 50 年以上になりますわ。」と快く答えて下さった。小学校 3 年生だった妹は、丸坊主で黒いサングラスをかけた指の曲がったおじいさんに少し戸惑っていたもののさすが子ども！「何で K さんの指は曲がってるの？」「K さんの目は見えないの？」と無邪気なもので、いつのまにか K さんの横でにこにこしていた。K さんには周りの人を和ませる不思議な魅力がある。しかしその和やかな笑顔の裏には想像を超える過去があることを付け加えたい。15 歳で発病し翌年家族と離れて光明園に収容された。園内作業に務める中、23 歳で病気が悪化し失明した。絶望的な出来事が重なる中、25 歳で信仰に目覚め、28 歳の時、聖書を読みたいという気持ちから、かろうじて感覚の残る舌で点字を読むという舌読を開始し、わずか 1 ヶ月で習得して自分の世界が広がったことなど、想像を超える K さんの過去とガッツに、家族全員目頭が熱くなった。K さんは今年 79 歳になられたが、今でも各地へ講演に行かれたりとパワフルさは健在だ。また K さんの温かい笑顔に会いに行きたい。

岩井多絵

<一口健康メモ: 飲む野菜はいかがですか?>

野菜が体にいいことは知っているのに、「野菜不足かも?」と思っている人も多
いはず。食べるだけでなく、“飲む” = “野菜ジュース”がオススメです。中でも注目
は「トマトジュース」。この赤色は、カロテノイドと呼ばれる色素の一種「リコピン」の
色です。リコピン自身に抗酸化作用があり、がんの予防、悪玉コレステロールの
抑制、さらには抗アレルギー作用も期待されています。そのまま飲んでもおいし
いけれど、ちょっと手を加えると、おしゃれなカクテルに早変わり。お試しください。

トマトジュース(食塩無添加)1 缶、バーモント酢(5 倍希釈)大さじ 2 杯、トマト
ジュース 1/2 缶、ピールまたは発泡酒 100ml 楽泉園薬剤師: 松本栄美

<人物紹介>

栗生楽泉園は文人の多いことで有名ですが、その中でも対外的に積極的な
発信を続けている方をご紹介します。以前テレビでも紹介されたので、ご存知
の方も多いと思いますが、桜井哲夫さんです。私たちは、哲ちゃんと呼んでい
ます。1924 年のお生まれで、17 歳の時から 60 年余、楽泉園で暮らしています。
療養所の中でも特に障害の重い方ですが、これまでに何冊か、宝石箱のよう
な詩集を出されています。凜と研ぎ澄まされたユーモアの中に独特の優しさ
があり、そこに静かで透明な救いを私は感じます。自分の人生をひたすら誠
実に生きた人が得た、静謐な詩情でしょうか。

哲ちゃんの詩に魅せられた人たちが、今年 2 月、彼を愛知県の安城市に招
き詩の朗読会が催されました。また哲ちゃんは、以前から途上国の現状に心
を痛めています。特に東南アジアでは、毎年多数の新たなハンセン病の患者
さんが出ているからです。不自由な身体でタイの奥地のハンセン病コロニーを
訪問し、きれいな水が出るように、井戸の採掘資金を援助されたこともありま
す。当日会場に来た高校生たちが、そんな彼の話に感動して、途上国の患者
さんのために、お小遣いをカンパしてくれたそうです。園に帰った哲ちゃんは、
皆さんから戴いた感想文と、小銭を集めた封筒を私の所に持ってきてくれまし
た。相談の結果、若者たちの温かい支援金を、私たちニルヴァーナが援助し
ている途上国の現場で使うことになりました。今回は、間もなくヴェトナムに向
けて出発するメンバーに託けて、現地での薬剤購入資金の一部として使わせ
ていただきます。今回はこれについて報告しますので、どうぞ期待!